

三心を磨く

学校だより NO. 22

平成28年11月16日(水)発行

須坂市立 東 中学校

文責：奥 幸雄(教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

校長講話 11月16日(水)

愛の反対は……。

みなさん、おはようございます。

立冬が過ぎ、冬の気配が色濃く感じられる季節になりました。朝夕は冷え込むようになり、風邪をひく生徒も見られるようになりました。体調管理に十分に注意して、元気にこの冬を乗り切ってほしいと思います。そのような中であって、3年生は、毎朝、高校入試に向けての朝学習に、多くのみなさんが参加してくれています。少しでも自分の学力を高めようと努力する、その3年生の姿勢は立派なものです。最後まであきらめずに、志望校に合格できるように頑張ってください。

さて、11月から12月にかけて、須坂市では須坂市人権教育強調月間を実施しています。それにあわせて本校でも、10月27日から11月14日を「後期人権教育月間」とし、主に部落差別問題を中心に、部落差別の歴史、差別と闘ってきた方々の生き方を学び、差別をなくしていこうとする心情を育てる学習を行っています。今なお社会に残る部落差別について学び、自分の人権意識を高め、いじめや差別のない学校や社会を創っていくために、自分にできることを考えてください。

そこで今日は、人権教育月間にあわせて「愛の反対は……。」ということについて、話をしたいと思います。この言葉は、知っている人もいるかと思いますが、ノーベル平和賞を受賞した修道女であり、平和活動家であった「マザー・テレサ」の言葉として有名です。

昨年、名古屋の中学生が、いじめを苦に電車で飛び込んで自殺するという、いたましい事件がありました。教育委員会の実施したアンケートによると、学校内で、多くの生徒が、その生徒がいじめられていることを知っていたことが分かっています。しかし、誰一人として、いじめの事実を、先生方やお家の方に知らせたり、仲間でやめさせたりしようとは、していなかったようです。

また、みなさんも記憶に新しいと思いますが、7月に神奈川県相模原市の障害者施設に刃物を持った男が侵入し、入所していた障害者19人を刺し殺し、26人にけがをさせるといういたましい事件が起きました。施設に入っていたのは、全員が知的に障害のある人たちで、体の不自由な人もいました。中には、ほとんど体を動かすことができない人もいたということです。今回の事件は、抵抗できない障害者を次々と殺害した、卑劣で残忍な犯行です。犯人の男は、「障害者がいなくなればいい」と話しているそうです。

話をマザー・テレサに戻しますが、マザー・テレサは、インドのカルカッタで、貧困と病気に苦しむ人々に、愛の手を差し伸べました。倒れている人に対して無関心でいることは、人として悲しいことです。それは、一人の人間としての人権を、大切にしていないということです。マザー・テレサは、次のように言っています。「この世で最大の不幸は、戦争や貧困などではありません。人から見放され、自分は誰からも必要とされていないと感ずることなのです。」と。

学校では多くの生徒や先生方が、毎日生活しています。人間関係のトラブルも、全くないとは言えません。しかし、先ほどの名古屋の中学生のように、友だちがいじめられていることを知りながらも関心を示さない。このことが、悲劇を生んだ原因の一つでもあると思います。また、社会の中では、さらに多くの人たちが生活しています。その中には、健全者もいれば障害をもった人たちもいます。私を含めて、多くの人たちが、障害をもった人たちも、一緒に生活しているんだという気持ちを持つことが大切なのではないのでしょうか。

この世の中で、必要のない人などいません。一人一人が、かけがえのない「命」をもった、大切な一人一人の人間です。だから大切なことは、自分にも、友だちにも、周りの人たちにも、地域の人たちにも関心を持つことです。マザー・テレサは、言います。「愛の反対は、憎しみではなく無関心です」と。

名古屋の中学生に、もっと多くの友だちが関わり寄り添ってくれていれば、彼が抱えていた淋しさや悩み、苦悩を共有できたかもしれません。また、障害者施設を襲った犯人は許すことはできませんが、彼の心の中の闇を多くの人たちが聞いてやっていたら、話をしていたら、悲劇を防げたかもしれません。

現在、東中学校では、いじめを出さないために、相談旬間を設けたり生活アンケートを取ったりして、みなさんの生活がよりよいものになるように、楽しい学校生活になるように配慮していますが、困っていること、悩んでいることがあったら、遠慮なく学級担任の先生、部活顧問の先生、教科担任の先生に相談してください。校内には、心の相談員の先生、スクールカウンセラーの先生など、みなさんの相談に応じる先生方がたくさんいらっしゃいます。それでも相談しにくいことがあった場合は、校長室と保健室に相談窓口を設けています。プライバシーは必ず守りますし、相談を受けた内容については、学校が全力で、責任をもって解決します。自分のことだけでなく、友だちのことでも結構ですので、悲しい思いをしている友だちがいたら、見て見ぬふりをするのではなく、自分のこととして考えてください。「愛の反対は、憎しみではなく無関心です」お互いがお互いを大切に、いじめのない、楽しい東中学校になるようにしましょう。

最後に、今日の1時間目の道徳の時間では、全校共通の資料を用いて、障害者への自分の中にある差別する心について、考える学習を行います。学級担任の先生が、資料を範読していただきますので、主人公の「ぼく」になったつもりで考えてください。

終わります。

本日、この校長講話を受けて各学級で「ぼくのお姉さん」という資料を扱いました。東中学校での後期人権教育の内容は、先日の学校だよりでお知らせした通りです。ご家庭でも、「いじめ」、「人権」、「命」等について話題にしていただければ幸いです。